

11・12月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。
「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

11/7 (土) 演劇への入口講座 第4回 小道具から楽しむ歌舞伎 —こだわりのモノづくりにせまる!

講師:近藤 真理子(藤浪小道具株式会社演劇部演劇課係長)
田村 民子(「伝統芸能の道具ラボ」主宰)

歌舞伎の舞台を支える小道具には、見えなところまでのこだわりが強く見られ、日本人ならではのモノへの思いを特に感じることが出来ます。そんなこだわりのモノづくりから、歌舞伎の世界への第一歩を踏み出しませんか?実際に使用されている小道具と共に、小道具のあれこれをお話します。



黒塗り蒔絵入り植絨鉢盆・銀延べ長煙管

- 日時:11月7日(土)14:00~16:00(13:30より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■ 参加費:1000円(千代田区民500円)

11/9 (月) BONSAI —海外の盆栽人気から学ぶ 日本の盆栽美と継承

講師:平尾 成志(盆栽師)

日本の盆栽文化は芸術性の評価も高く、海外では「BONSAI」で認知度を上げています。定員に達した為、受付を終了しました。方法なや展示は一味違う盆栽を広く、継承していくかをお話いただきます。



内藤トウガラン

- 日時:11月9日(月)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール) ■ 定員:60名 ■ 参加費:1000円

11/10 (火) 今、楽しめる江戸東京野菜の魅力

講師:大竹 道茂(江戸東京・伝統野菜研究会代表)

江戸幕府の開府に合わせて、全国各地から持ち込まれた野菜は、次第に江戸近郊で栽培されるようになり、江戸の食文化を形成するようになっていきます。そんな江戸東京野菜について、長年にわたり伝統的な江戸東京野菜の復活に取り組まれている講師にお話いただきます。



内藤トウガラン

- 日時:11月10日(火)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名 ■ 参加費:500円

11/13 (金) 千代田区民講座 のれんの継承~寿司の歴史と技術~

講師:中野里 陽平(株式会社築地玉寿司 代表取締役)

寿司は今や世界中で愛されている日本が誇る食文化ですが、そのルーツは日本ではなく東南アジアだと言われています。地方によって呼び名も形も違いますが、魚をより新鮮でおいしく食べることができるよう、長い時間をかけて様々な技術が生み出されてきました。寿司文化を後世に伝えるための技術の継承や、歴史についてお話いただきます。(主催:NPO法人神田雑学大学)



- 日時:11月13日(金)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名 ■ 参加費:無料 ※10月20日(火)千代田区民受付開始。区民以外は10月27日(火)から受付開始。

▶参加申込:電話(03-3502-3340)またはEメール(college@hibiyal.jp)にて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

11/18 (水) 星をたのしむ・秋 ~星と芸術

講師:皆川 敏春(星のソムリエ®みたく)
匠 あさみ(星のソムリエ®みたく)

芸術の秋、絵画や音楽の世界にも星の物語がひそんでいることをご存知でしょうか。芸術が星の世界を表現しているのか、それとも星の世界が芸術をみせるのか?グルックやオッフェンバックのオペラ、ヘレニズムの影響を受けた古星図の世界など、様々な芸術作品に見られる星のお話や当日の夜空について、星のソムリエ®が語ります。



皆川 敏春氏撮影「星を眺く」

- 日時:11月18日(水)19:00~21:00(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名 ■ 参加費:1000円

11/19 (木) 古書で紐解く近現代史セミナー 岩倉使節団は明治日本に何をもたらしたのか(全3回) 第1回 岩倉使節団の使命とその群像

講師:泉 三郎(NPO法人 米欧並回覧の会理事長)

岩倉使節団から何人かの人物を取り上げて彼らの事蹟を紹介し、時代を越えて通用する考え方や学ぶべき点を語っていただきます。第1回目は、岩倉使節団に課せられた使命と参加メンバー、その構成についてお話いただきます。



岩倉使節団(東洋文化協会著『幕末明治文化変遷史』より)

- 日時:11月19日(木)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名
- 参加費:1000円(千代田区民500円)

<次回予告>

- 11月25日(水)19:00~20:30 第2回「随員・留学生たちは何を、どこで、どう見たか」
- 12月2日(水)19:00~20:30 第3回「伊藤博文に見るリーダーの資質」

11/25 (水) 図書館建築を読む 第4回「図書館と都市」

講師:桂 英史(東京藝術大学大学院教授)

今やどんな地方にも図書館があり、地域の人の知的な好奇心を引きつけています。「図書館建築を読む」最終回では、地域を象徴する図書館建築が担う公共性を通じて、人の集まる場所としての図書館、そして図書館と都市のあり方についてお話します。(協力:河出書房新社)



- 日時:11月25日(水)19:00~21:00(18:30より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■ 参加費:1000円

11/26 (木) 『平家物語』を、よむ・わかる・かたる(全3回) 第3回『平家物語』を「語る」という試み —三遊亭金朝師匠を迎えて—

講師:林望(作家・国文学者) ゲスト:三遊亭 金朝(落語家)

『平家物語』が本質的に持っている「語り物」としての性格について林望氏が講述した後、目下注目を集めている若手落語家の三遊亭金朝師匠をお招きして、『讀訳平家物語』のいくつかの名場面を「語り芸」のスタイルで朗読していただきます。話芸のプロである三遊亭金朝氏と共に、その文体や面白さについて語り合います。(主催:上廣倫理財団)



三遊亭 金朝

- 日時:11月26日(木)18:30~20:30(18:00より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■ 参加費:500円(千代田区民及び学生は無料) ※学生の方は当日、学生証をご提示ください。

11/30 (月) 近現代史の舞台をめぐる 日比谷・丸の内ツアー

解説:石神 森(三菱地所株式会社 美術館室)
菊本 誠二(日比谷公会堂/日比谷音 館長)

案内:五十嵐 義政(明治生命ビルマネジメント株式会社丸の内センター副センター長)
ガイド:榊湖 彰太郎(日比谷図書文化館 学芸員)

明治、大正、昭和にかけての激動の時代、日比谷・丸の内でも様々な出来事が起こりました。対日理事会の会場となった明治生命館、丸の内の発展に寄与した三菱一号館、日本のカーネギーホールと称された日比谷公会堂。これらの歴史ある建築物をめぐるながら、日本近現代史に思いをはせるツアーです。



三菱一号館美術館 歴史資料室

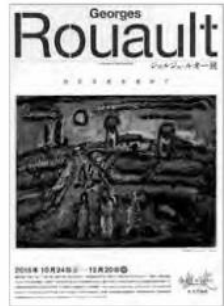
- 日時:11月30日(月)12:00~15:30(11:30より受付)
- 集合:日比谷図書文化館1階受付前
- 定員:25名 ■ 参加費:1000円(休憩時の飲みもの代・保険代含む)

12/3 (木) 展覧会への入口講座Vol.18 出光美術館 × 日比谷図書文化館 ジョルジュ・ルオー

—作品の魅力と日本における人気の秘密をさぐる

講師:八波 浩一(出光美術館 学芸課長代理)

20世紀フランスの宗教画家ジョルジュ・ルオー(1871-1958)。出光美術館には連作油彩画《受難》や銅版画集『ミセレーレ』などの大作が所蔵され、人気を集めています。キリスト教国でない日本でなぜルオーが愛されているのか。作品の魅力とともに人気の謎にせまります。



- 日時:12月3日(木)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名
- 参加費:1000円(千代田区民500円)

12/4 (金) 江戸歴史講座第36回 十返舎一九生誕250年記念 江戸時代の旅の文学 —十返舎一九作『東海道中膝栗毛』—

講師:中山 尚夫(東洋大学文学部教授)

江戸時代には街道の整備がすすみ、旅は庶民にとって身近なものになった。多くの旅の文学の中で、庶民に最も親しまれた作品が江戸時代後期に出版された十返舎一九の『東海道中膝栗毛』である。この作品の特徴や今年生誕250年を迎えた作者、一九について考えてみたい。



十返舎一九『東海道膝栗毛』三嶋 臨川書店「稀書複製会叢書」より

- 日時:12月4日(金)19:00~20:30(18:30より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名
- 参加費:1000円(千代田区民500円)

12/8 (火) ドナルド・キーンと日記 ~日本兵の日記との出会いから日本文学研究への道のり

講師:中津 義人(ドナルド・キーン・センター相崎 プランニングアドバイザー)

ドナルド・キーンの日本文学研究者としての原点は太平洋戦争。語学士官として解読した日本兵の日記との出会いが、後に日本文学の系譜は日記文学にあるとの発見につながり、『百代の過客』『日本人の戦争 作家の日記を読む』に結実する。ドナルド・キーンの人となり、仕事について語る。(協力:ドナルド・キーン・センター相崎)



- 日時:12月8日(火)14:00~16:00(13:30より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■ 参加費:500円

特別研究室 ミニ通信

■ 特別研究室企画展示

「明治日本のリーダーたちの海外渡航 ~『米欧回覧実記』をはじめとして~」

特別研究室の蔵書から、江戸時代の終わりの万延元年遣米使節や明治維新後の岩倉使節団をはじめとして、幕末・明治期に海外経験をした日本人達に関する本を展示しています。米国の軍需工場やウィーン万博などで西洋の文明を目の当たりにした彼らが、帰国後どのような事業に取り組んだのかについても紹介しています。

12月28日(月)まで開催中

海軍工廠に於ける一行写真(『万延元年遣米使節図録』より)

LIBRARY SHOP & CAFE HIBIYA 【ライブラリーショップ&カフェ日比谷】

食欲の秋にあわせて1階ショップ&カフェでは「もの食文庫」と題し、エッセイを中心とした「食」に関する文庫約100冊をそろえたフェアを開催中です。(販売書籍となります)また、カフェでは秋の味覚をふんだんに使ったスイーツが新登場。読んで、食べて、食欲の秋を楽しみませんか。



とろーり キャラメルモンブラン

◆ポモーヌ広報室より◆ 4th Anniversary

2011年11月4日、日比谷図書文化館は「図書館機能」だけではなく「ミュージアム機能」「アカデミー機能」を兼ね備えた複合文化施設として開館しました。本や資料を提供するだけでなく皆さまの「想像力」や「好奇心」を刺激しその能力を引き出すために、様々なお手伝いと支援をする施設。つまり、皆様の「知の拠点」となることを目指しています。これから始まる5年、10年、そして未来へ、これからも多くの皆様に愛される「魅力ある施設」を目指し努力してまいります。